

ぼやあ樹だより

今月は、「THE TRUE EYES」YouTube チャンネルをはじめ、ぼやあ樹のさまざまな取り組みをご紹介します。日々の活動や想いを、ぜひご覧ください。
また、弊社ホームページでは各事業所のニュースなども発信していますので、あわせてチェックしてみてください。

THE TRUE EYES

介護・医療・福祉に関わる方々の想いや日々の姿に光をあてた動画チャンネルです。

インタビューシリーズ ～THE TRUE EYES～
人それぞれの想いや経験、リアルな声をご紹介します。

希望を叶えるシリーズ

「やりたい」をカタチに。夢や希望に寄り添う物語。

自分らしく生きるシリーズ

その人らしい生き方や、人生の一場面をお届けします。

出演者募集中！

「この人の想いを届けたい」
そんな方がいらっしゃいましたら、
ぜひご紹介ください。

YouTube

チャンネルは
こちらから▶



今、伝えたい想いを。



スタッフのスキルアップを応援しています！

ケアマネジャー資格取得支援制度

利用者様により安心していただけるサービスを提供するため、スタッフの学びや成長を大切にしています。
ケアマネジャー資格取得を目指すスタッフに向けて、受験費用のサポートや勉強会、参考書・問題集の貸出など、資格取得に向けた学びを会社がバックアップしています。
スタッフの成長を、より良いサービスと利用者様の安心につなげていきます。



受験費用をサポート

受験にかかる費用を会社が全額負担
(3回まで)。



勉強会・教材学習を支援

社内勉強会の実施や参考書・問題集など
学びの環境を整えています。



資格取得後の成長も応援

合格報奨金や取得後の研修で次のステップ
もサポートします。

イベントと同時開催！ ～見学・相談会スタート～

イベント開催日に施設見学会や相談会を同時開催します。
病院、ケアプラなどのご紹介の方も大歓迎！
ぜひお気軽にお立ち寄りください。
詳しくは、各事業所の入口に掲示しているポスター、または
ぼやあ樹 Instagram をご覧ください。



イベントの様子

ギター演奏会
9/2 関内

ハワイアン
コンサート
9/4 平川町



ぼやあ樹 Instagram

6,500
フォロワー突破！

Follow Me

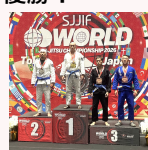


石川社長
世界大会で優勝！

おめでとう
ございます

MALE BLUE
MASTER 46
フェザー級
2026.9.4

SJJIF 世界柔術選手権 2026



運転もできる

介護スタッフ募集

ぼやあ樹 松本町・神大寺

週3～

詳しくはコチラ

ご利用者の
毎日を支える
介護のお仕事
です。



ぜひ一緒に働きませんか？

介護に関するお困りごとや、当広報誌についてご不明な点が
ございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

相談窓口 ☎:045-620-5540

「希望をカタチに」 — Vol.8 —

代表取締役 石川 洋一



本コラムでは、「希望をカタチに」という理念が、
どのような出会いや想いから生まれてきたのかをお伝えしていきます。

～「できる・できない」ではなく、「どう生きたいか」～

「自宅に帰りたい。」

その一言を、何度も口にされていた方がいました。

50代の男性。

タクシー運転手として働いていたある日、工作中に突然意識を失い、脳梗塞を発症しました。

命は助かりましたが、右半身には麻痺が残り、高次脳機能障害も抱えることになりました。

約2年に及ぶ入院生活。

治療とリハビリを重ねても、病院の判断は厳しいものでした。

「自宅での生活は難しい。」

「施設で生活した方が安全です。」

室内でも転倒の危険があり、一人ではできないことも少なくありません。

医療的に考えれば、その判断は決して間違いではありません。

それでも、ご本人の気持ちは変わりませんでした。

「施設には入りたくない。」

「自分の家で、自分らしく暮らしたい。」

その想いは、とても強いものでした。

私たちは、

その言葉を「無理」と片付けるのではなく、
「どうすれば実現できるのか」を考えました。

医療、介護、福祉。

多くの専門職が力を合わせ、ご本人の生活を支える仕組みをつくっていきました。

転倒リスクを減らす環境づくり。

必要なサービスの調整。

ご本人の力を最大限に活かせる関わり。

決して楽な道ではありませんでした。

それでも、あの日から約10年。

今もご本人は自宅で生活を続けています。

好きな時間を過ごし、

好きな音楽を聴き、

大好きな歌手のコンサートへも出掛けています。

もちろん、病気が治ったわけではありません。

右半身の麻痺もあります。

高次脳機能障害もあります。

できないこともたくさんあります。

それでも、その方は自分らしく笑っています。

私は、この方から大切なことを教えていただきました。

私たちは、いつの間にか「できる」「できない」という物差しで人を見てしまいます。

しかし、本当に大切なのは、その境界線ではありません。

「どう生きたいのか。」

その人自身の意思です。

本人が望み、周りが知恵を出し合い、
支え合うことで、「無理だと思っていたこと」が、
「できる」に変わることがあります。

ばやあ樹が掲げる「希望をカタチに」とは、決して大きな夢を叶えることだけではありません。

住み慣れた家で暮らしたい。

好きな音楽を聴きたい。

大好きな歌手のコンサートへ行きたい。

そんな何気ない日常こそ、その人にとっては

何より大切な「希望」です。

私たちは、その希望を「危ないから」「難しいから」で終わらせたくありません。

もちろん、安全は大切です。

ですが、安全だけを優先して、

その人らしさまで失ってしまっては、

本当の支援とは言えないのではないのでしょうか。

できる・できないの境界線は、人が決めるものではありません。

その人の「こう生きたい」という想いに、どこまで寄り添えるか。

そこに、医療・介護・福祉の本当の価値があると私は信じています。

これからも、ばやあ樹は、一人ひとりの「希望」を大切にしながら、その人らしい人生を支える存在であり続けたいと思います。

希望は、諦めなければ、きっとカタチになります。



次回もまた、新たな「希望をカタチに」の物語をお届けいたします。